

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホームほほえみ
(ユニット名)	そらユニット
所在地 (県・市町村名)	佐世保市
記入者名 (管理者)	光成美香
記入日	平成 20 年 9 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気大切に、その人らしく暮らし続ける為、「ほほえみ」という、ホーム名称の頭文字から理念を作り上げている		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を意識できるよう室内に提示し、日々のサービス提供場面(言葉かけ、態度、記録など)において、理念の実践に取り組む、また、ミーティングでは理念に必ず触れ、確認している		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットに記載したり、地域のイベントに参加したり、家族に対し、毎月お便りを発行し、事業所での取り組みを知らせているが、理念の説明など、理解してもらえるような取り組みは出来ていない		ホームでのイベント参加への呼びかけなど、積極的に行なっている。又、介護教室を開催し、家族や地域住民の参加で理解して頂けるよう働きかけていく
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所へ散歩へ出かけたりはしても、日常的な付き合いが出来るような働きかけは出来ていない。医療法人ということもあり、近隣者の出入りが多い。その為、職員は常に明るい挨拶を心掛けている		災害対策の備えとしても、近隣の人々との馴染みの関係を築けるように、日常的に出来るだけ近所へ出かけ、触れ合う機会を多く持つようにしたい
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや運動会など、利用者とともに積極的に参加している。又、事業所に近隣の小学生や、中学生が体験学習に来てくれるなど、地域との交流がある		地域の公民館祭りに入居者の作品(貼り絵・習字など)を展示し参加している。地域の業者に依頼し、商品をホーム内で販売してもらうことで、買い物楽しみと交流を図っていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者などを対象に、介護教室を開催し、地域貢献に取り組んでいく。また、職員一人ひとりが研修などに参加し、今後の取り組みに役立てていきたいと考えている		地域の方々への貢献にもなり、交流の図れるため、このような機会を多く作っていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行なうことで、各自が意義を理解し、サービスの質の向上に努めている。また、評価を活かし、全員で改善に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、事業所の活動状況や利用者様の状況などの報告を行なっている		参加者からの意見や要望を聴くことで、改善点を見つけ、取り入れる事で、サービス向上に繋がっている
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回、グループホーム連絡協議会が開催されており、担当者との情報交換の場となっている。また、高齢者支援センターが併設されており、情報交換を行なっている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用は、一部の職員しか理解できておらず、今後の課題である		職員全員が理解を深めるために、学ぶ機会を持ち、必要時に支援できる体制を整えていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	支援を行なううえで、日常の行動の中に虐待に繋がる行為はないかなど、スタッフ間で話し合いを行なったりして防止に努めている		今後、虐待行為について学ぶ機会を持ち、職員全員が虐待に対する知識を持つことと、防止の徹底を行っていく必要がある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用料金やサービス内容、提供方法、費用などの説明と医療機関との連携など十分な説明を行い、疑問点を尋ねた上で同意を得ている。又、事業所として出来ないことについても明確に説明している</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に、入居者の言動などから、思いを察する努力を行い、問題が発生した場合には、スタッフ全員で話し合いを行い、改善に努めている。入居者の立場に立って、傾聴の姿勢でのケアを心がけ、運営に反映させていくように努めている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当スタッフより、健康状態や生活についての手紙を郵送しており、状態変化や必要時には、随時連絡をとっている。面会時にも、家族との情報交換を行なっている。金銭出納帳にて金銭管理も毎月報告している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設置しており、苦情が出た際には、原因の追求と改善策を検討し、対応に努めている。運営推進会議に参加していただくことで、外部者の意見などを表せる機会などを設け、意見に対し前向きに受け止める努力をしている</p>		<p>年に1回クリスマス会を開催し、食事会を行ないながら、スタッフと家族との交流の場を設けている。2ヶ月に1回、当ホームにて運営推進会議を開催し、意見交換を行っており、運営に反映させている</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回カンファレンスを行い、スタッフ同士の意見交換の場を設けており、意見や要望などを聞きながら、運営に反映させ、質の向上に努めている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中は3名のスタッフが常に入居者の生活の流れを支援している。入居者の状態変化に応じ、必要時にはスタッフを増員するなど、パートを含め勤務調整を行なっている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットでスタッフの配置は固定しているが、やむを得ず異動や離職になった場合は引継ぎの時間を十分にとり、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内・外で行なわれる勉強会へ積極的に参加し、スタッフの質の向上と、質の高いケアを目指している。また、免許所得の推奨を行っており、職員のスキルアップを図っている</p>	<p>全スタッフが共有できるよう、毎月のカンファレンスで研修報告する機会を設けている</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム連絡協議会へ加入しており、定期的に行なわれる協議会へ参加することで、同業者との交流の場をもち、意見交換を行なうことでサービスの質の向上に役立てる取り組みを行なっている</p>	<p>他のグループホームへの見学や、合同の事例検討会などの場を多く持ち、今後も質の向上を図って行きたい</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>事業所内で定期的に交流の場を作り、気分転換を図る機会を作り、また、日常的に職員と会話を多く持つ事で、ストレスや悩みを把握できるよう心掛けている。勤務中にも気分転換できる休息室を確保している</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>週40時間の労働であり残業はほとんどなく、就業規則がきちんと守られている。年1回健康診断を行い、職員の健康管理も行っている。また、職員の資格所得に向けた支援も行っている</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>居宅のケアマネージャー、医師、看護師、理学療法士と連携を取り事前の生活状態、本人が求めていること、不安な点など、本人の思いに向き合い職員が受け入れられるような関係作りに努め、また、全職員が情報を共有できるようにしている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の不安や求めているものを理解し、事業所としてどのような支援が出来るか事前に話し合い、ご家族に提案している。また、不安を軽減して頂けるよう傾聴する機会を作り、受け止める努力をしている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時点で、本人や家族の思い、状況などを確認 し、改善に向けた支援の提案、相談をしながら、必要に応じ 他のサービス利用も検討している</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している</p>	<p>入居前に何度か見学に来て頂いたり、短時間でもホームで 過ごしていただき、雰囲気や他入居者・スタッフと交流に努め ている。しかし、やむをえない理由で入居された場合は、家 族・ケアマネージャーなど馴染みの人に来ていただき、混乱 を少なくするよう工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で本人の喜び・楽しみ・不安・苦しみ・悲し み・怒りなど、本人の思いに共感し、ホーム内で必要性を感 じられるよう、得意分野で力を発揮してもらい、生活の技・生 活文化の大切さを教えてもらいながら、互いに協働し支えあ いながら生活している</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている</p>	<p>月に一度のお手紙や来訪時に、日々の暮らしの出来事や状 態を伝え、家族との情報の共有に努め、本人を支えるための 関係を築けるよう努めている</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている</p>	<p>家族へ本人の思いを伝え、ともに過ごす時間を多く持てるよ う支援している。また、家族を一緒に行事に誘うなどして、より 良い関係が保てるよう支援している</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている</p>	<p>併設のサービスを利用し、なじみの人との交流や、行きつけ の商店での買い物など、関係が途切れないよう支援に努め ている</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せず利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている</p>	<p>個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごせ る場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくよう 職員が調整役となっている。利用者同士の関係について、職 員全員が情報を共有し、日々注意深く見守るようにしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	居宅のケアマネジャーとの連携を図り、利用者・家族との関わりを保っている。事業所の行事などにも声かけを行なっている		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけし、言葉や表情などから、本人がどのように暮らしたいのか、誰と会いたいのかなど、確認するようにしている		意思の伝達が難しい人に対しては、家族の意向も考慮しながら、本人本位に検討していきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をご家族の方に聞き取るようにしている。また、ご本人との会話の中から、情報を得るように努めている		居宅のケアマネジャーとの連携を図りながら、情報を得ていきたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムを理解し、体調に合わせながら出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め全職員で、意見交換・カンファレンスを行い、介護計画の作成に取り組んでいる。また、必要に応じ理学療法士・言語療法士と意見交換を行い、介護計画に反映させている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際には、終了する前であっても検討見直しをしている。介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族・本人の要望に応じて見直しを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	記録は出来るだけケアプランに沿って行なうようにしており、計画の見直し、評価などに活かしている。個人別の記録を行なっている		記録をする際は、その都度計画を確認しながら行い、ケアの実践が出来ているかを見直しながら、今後のケアに活かしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	併設しているデイサービスやデイケアにての習字教室やレクレーションなどへ、本人の希望に応じて参加している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	運営推進会議や地域の行事への参加にて、民生委員の方や、地域の方々とは交流が取れている。また、ボランティアや体験学習の受け入れも行なっている		今後は警察、消防など様々な機関にも、お便りの配布など行い、積極的な働きかけを行なっていきたい
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	本人の希望があれば、併設しているデイサービスやデイケアを利用している		今後は事業所以外でのサービスも利用できるような支援を行なっていきたい
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	高齢者支援センターが併設されており、高齢者支援センターを通じて情報が入手できている。また、2ヶ月に1回推進委員会にて、センターの職員との情報交換も出来ている		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	併設の医療機関のほか、本人や家族の希望がある場合は、家族に同行していただき、他医療機関での医療を受けていただいている。異常が見られる際などの必要時には受診を進めている		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	併設の医療機関にて認知症の診断、治療を受けることは可能。随時、利用者様の状態を連絡しており相談も可能		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	医療機関併設のため、常に連携は取れている。また、看護職員が配置されており健康管理、医療の活用の支援が出来る		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院時には入院先の医療機関への情報提供を行い、利用者様の不安の軽減などに努めている。入院中も情報の収集を行なうなど、退院後に備えた連携が出来ている		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	終末期に対する対応指針を定めており、必要時には家族への説明も行っている。家族・医師・看護師を交えて話し合いを行い、利用者様や家族の意向を大切にしている		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	終末期の利用者様の対しては、急変時すぐに対応が出来るよう、併設の医療機関の医師・看護師と状態などの共有も行なっている。職員の中に1名、看護師が常勤しており、状態に応じて介護計画の見直しを行なっている		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	ケアマネージャーやそれぞれの事業所の職員間での情報交換を行い、利用者様の精神的・身体的な不安を軽減できるよう努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人のこだわりや誇りを損なわないような対応、言葉かけを行なっている。部外者に対し必要事以外は情報を漏らさないよう徹底している</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自ら訴えられる方もいるが、訴えられない方は、スタッフが傾聴し、その人の思いを知り、支援している</p>	<p>職員が何でも決めてしまうのではなく『その人らしさ』を尊重して支援していきたい</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、入居者様の気持ちを尊重し、出来るだけ本人様のペースで過ごせるよう支援している</p>	<p>スタッフの業務・勤務体制や入居者様の状態により希望に添えないときがある。出来る限り希望に沿えるように支援していきたい</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみやおしゃれが困難な方はスタッフが準備しているが、自ら出きる方は自分されるよう見守っている。理美容は移動美容室を利用しているが、希望者は馴染みのお店に行かれている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様・スタッフ一緒に食事を摂っている。料理を手伝っていただいたり、食器洗い・食器拭きをしていただいている。また、メニュー作りにも参加していただいている</p>	<p>入居者様の好物をメニューの中に取り込んでいきたい</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入浴後や日常生活の中での水分補給時、本人様の好きな飲み物(お茶・コーヒー・紅茶など)を出している。現在、喫煙・飲酒される方はいない</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて排泄のパターンを把握し、自立を支援している。尿意・便意がない方には時間誘導をし、オムツ使用の入居者には1日1回はトイレでの排泄を試みている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は平日の午前中と決まっているが、入浴されるタイミングは入居者に合わせるようにしている		入居者からの希望する時間に入浴できるよう支援していきたい。午前中に入浴できなかった場合には、午後から入浴してもらっている
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活のリズムを作るため、日中の生活を工夫した働きかけを行なっている。入居者の状態に合わせて、ソファで休んでもらったり、体力が落ちている方に関しては、午後より居室で休んでもらう時間を作っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や食事作り、野菜作りなど入居者の経験を活かした場面を作っている。入居者様達と工作をして、部屋に展示したり、ファイルしている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、職員管理になっている。買い物希望される場合は、預かり金より入居者様へお金を渡し、購入していただいている。また、本人が管理できる場合には、小額のお金を所持し、買い物に行っている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者様の状態や天気に応じて、散歩や買い物、ドライブなどに出かけている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様の体調や外出時間、場所により職員の勤務を調整し、出かけられる機会を作っている。場合によっては、家族の方に協力をお願いすることもある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは、いつでも電話をかけて頂けるように支援している。また、電話がかかってきても、ゆっくりお話しできるような雰囲気作りを心掛けている。手紙を書かれたときはすぐに投函できるよう援助している		毎年、年賀状やクリスマスカードなどを出すための支援を行なっている
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は決まっているが、必要に応じご家族様がいつでも訪ねていただけるように配慮している。また、ご家族様の希望があれば、宿泊や食事の提供もしている		ご家族様に限らず友人や知人、地域の人々の訪問も多く、ゆっくり気兼ねなく過ごして頂けるような空間作りを心掛けている
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践するため、全職員が常に意識しながら、日々のケアに取り組んでいる		勉強会やカンファレンスを行い、拘束しないケアの具体的な行為を再認識していきたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため、玄関のみ施錠しているも、ユニットの出入り口や個々の居室には鍵を掛けることなく、自由に出入りしていただいている		入居者が外出しそうな様子があれば、声をかけたり、一緒についていくなどし、出来るだけ自由に行動が出来、安全な暮らしができるよう支援していく
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアには、常に職員を配置し、入居者の様子を把握できるよう配慮している。夜間も全居室が見渡せる位置にて業務にあたり、時間ごとに訪室し、入居者の状態把握に努めている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人に合った管理方法で必要に応じて、その都度すぐに使用できるようにしている。また、使用時には注意を促し、使用後は必ず返品していただくなどの安全面も考慮している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため日頃より、点検や訓練を行なっている。また、入居者一人一人の状態を把握することにより、予測される危険を回避できるよう検討している。インシデント・アクシデントを記録し、職員の共通認識を、事故原因の予防について検討している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が緊急時に対応できるよう、緊急時対応マニュアルを作成しており、カンファレンス時などに確認するようにしている		応急手当の訓練は定期的に行なえていないため、今後は行なって行きたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年1回利用者とともに避難訓練を行なっている。又、地域との協力体制については、運営推進会議などで協力をお願いしている。消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認や消火器の使い方の訓練も行なっている		避難訓練は行なっているが、非常用食料や備品は不十分のため、今後そろえて行きたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクを把握しており、利用者の行動を抑制するのではなく、安全に行動できるよう障害をなくし、その対応策をその都度家族へ説明している。また、リスクについては、毎月のカンファレンスでその都度話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子などに変化があるときはバイタルチェックを行い、状態によっては医療機関へ受診している。また、状況を記録していくことで、職員間での情報を共有し、対応を行なっている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より頂いた服薬カードをファイルし、職員全員が把握できるようにしている。また、服用時は誤薬を防止するため二重チェックを行い、きちんと内服できているか確認している。状態が変化した際や、副作用が考えられる際には主治医へ報告し、連携を図っている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や体操、繊維質の多い食材や乳製品を食事に取り入れることで、自然排便に努めている。また、便秘の方には下剤の調整を行い、便秘予防を行なっている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、週1回洗浄剤にて義歯の洗浄も行なっている。また、入居者の状況により介助している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水・便秘防止のため、毎食以外でも工夫して飲水を促している(お茶だけではなくジュースやココアなど)病歴・状態見て摂取できる量、カロリーを把握し、栄養が偏らないように支援している		食事動作が困難な方へ、補助器具や食器などを取り入れ支援していきたい
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医療法人全体として感染対策委員会を設置しており、部署会などを通じ随時報告し、注意を促している。また、カンファの際には職員に対し、感染予防の意識付けを行なっている		職員だけでなく、外部から来られる方にも、感染予防に対する意識を持ってもらい、手指の消毒など行なってもら
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用後は必要に応じてアルコールや、ハイター消毒を行なっている。賞味期限のチェックや野菜・果物など傷んでいないかチェックしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花壇を設け、季節の花を植えている。窓ガラスの飾り付けや、メッセージボードなどを利用し、ご家族様・近隣者に対し親しみやすさを感じるよう配慮している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、共同空間の掃除をし、担当者の部屋や係りで決められた箇所の掃除を行なっている。壁に手作りの飾り付けをし、ほっとできるような空間作りを行なっている		季節感を感じさせるような花や、飾り付けを行なって行きたい
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを設置しくつろげるスペースを作ったり、畳を利用し洗濯物をたたんだり、作業の場所を確保している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた私物を持ってきていただき、なじみの物を使用することで安心した生活が送れるよう支援している。		本人の趣味を活かした居室作りに取り組んでいきたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、フロア全体の換気を行なっている。居室は本人様の申し出や、体調にあわせ、調節している。においがこもりやすいトイレは、常に換気している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に生活を送れるよう、障害物を除去している。利用者の状態に合わせて、手すりや浴室などの居住環境を考え、安全確保と自立への配慮をしている		一人ひとりに合った居室内の環境作りを行っていく必要がある
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の能力に応じ調理や、食器拭き、洗濯物干しなど、生活の中での役割を持つことで、自立した生活を支援している。また、塗り絵や計算ドリル、クラフト作業など趣味を活かせるよう工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	職員とともに近くへ散歩や、買い物へ行ったりしている。ベランダを利用して、園芸をされたりもしている		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者のADLの向上維持のため、リハビリに力を入れている。外来でのリハビリのほか、ホーム内におけるリハビリがあり、一人ひとりにあった個別のメニューを作成し実践している。地域の人々との交流を深めるために、併設されているデイケアやデイサービスへ足を運び、馴染みの人たち、友人、知人との親睦を大切にいただいている。介護教室を開くことで、地域の人々にグループホームのしくみや、認知症への理解を深めていただいている。入居者の健康管理には特に気を配り、異常時にはすぐ主治医と連携をとり、受診していただいている。また、職員に看護師を配置することにより、24時間体制で連絡が取れるようにしている。